

がたかまったことがみとめられる。

第21表は、耐久消費財の普及状況について東北六県の県庁所在都市の比較を示したものである。

本県の耐久消費財の普及は、東北六県中上位にあるものとみられよう。全国5万以上の都市の平均を100とした指数であらわされている。指数からみて1位にある品目は6、2位は9、3位は4、4位は2、5位は1となっていて、2位と1位にある品目が多い。

しかし、全国平均からみると、90台が1、80台が3、60台が1、50台が4、40台が3、30台が1、20台が2、10台が4、10台以下が3となっている。

和整理タンスが93.7でもっとも高い普及をしめし、ついで、テレビの89.6、自転車の83.3、ラジオの81.3となっており、全体的に電気器具と木製家具の普及度がたかい。

雑費は、食料、被服、住居費の伸びの上昇におくれ、時系列からみると昭和28年の伸びは、もっとも小さく昭和31年までこの傾向にあったが、昭和32年以後は、水準上昇が順調につづき、昭和39年にいたっては、第2位の伸びを示している。すでに第48図でみたとおり、今後とも雑費は堅実な伸びをみることを考えられる。

